

宝塚市

観光振興戦略

— 概要版 —

ウェルネスを実現するまち、たからづか

～宝塚の魅力(まちの宝)でよろこび、癒し、つながりを生み出します～

令和3年度 ～ 令和12年度

(2021年度)

(2030年度)

目次

第1章 観光振興戦略の概要	1
1 策定の背景と目的	1
2 実施期間	1
3 宝塚市観光振興戦略の位置づけ	1
第2章 宝塚市をとりまく観光の現状と課題	2
1 宝塚市をとりまく観光の現状と課題	2
第3章 観光振興に向けた施策展開	3
1 第6次宝塚市総合計画に定めるめざすまちの姿	3
2 コンセプト	3
3 基本目標	3
4 基本方針	4
(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし	4
(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信	4
(3) 持続可能な観光振興に向けた環境整備	4
5 目標値	4

第1章 観光振興戦略の概要

1 策定の背景と目的

観光は、農業や商工業等の幅広い産業に影響を与える、すそ野が広い総合産業です。また、人口減少の時代を迎え、定住人口の飛躍的な伸びが期待しにくいなか、観光により交流人口を増加させることが期待されています。国内観光やインバウンドは、新型コロナウイルス感染症により大幅に減少しましたが、長期的な視点に立つと観光需要は今後も増加が見込まれます。そのため、3密（密閉・密集・密接）回避や公衆衛生の徹底などへの配慮に加え、この需要の受け入れを適切に誘導していくことにより、すそ野が広い経済波及効果が回復し、地域が持続的に発展する原動力となります。

本市においては日帰り観光客が多く、宝塚歌劇をはじめとする観光資源の魅力を十分に生かした誘客（交流人口の増加）ができておらず、その経済波及効果を十分に発揮できていない状況にあります。加えて、近年の社会経済情勢の変化により、観光ニーズが多様化し、団体から個人へ、訪問型から体験型への志向が高まるなか、新しい観光スタイルへの転換が求められています。

一方で、持続可能な観光振興に向けSDGs（持続可能な開発目標）を意識し、観光公害[※]への対応や、今般の新型コロナウイルス感染症による国内観光客や外国人観光客の激減への対応等のリスクマネジメントにも留意しておく必要があります。

そこで、現在の「宝塚市観光集客戦略」の終期を迎えた今、いわゆる「ウィズ(with)コロナ」や「アフター(after)コロナ」に対する戦略も加味した「宝塚市観光振興戦略」を新たに策定し、持続可能な観光振興を図ることとします。

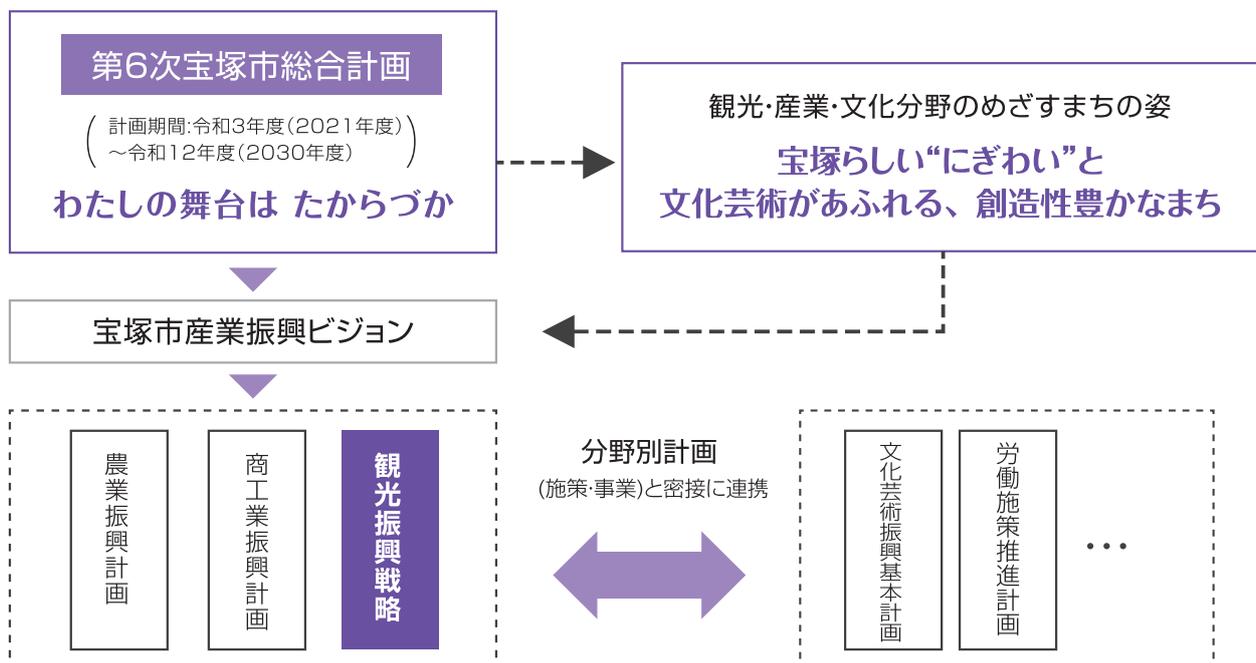
※ 観光公害:観光客や観光客を受け入れるための開発が一時的に集中するなどにより、地域や住民の日常生活に影響を及ぼすことを例えた表現のこと。
英語ではOver tourism（オーバーツーリズム）が用いられることが多い。

2 実施期間

本戦略の実施期間は令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）までの10年間とします。
なお、別途前期5年、後期5年のアクションプランを作成し、戦略に沿った施策展開やその確認も行います。

3 宝塚市観光振興戦略の位置づけ

本戦略の策定に当たっては、「第6次宝塚市総合計画」及び「宝塚市産業振興ビジョン」を踏まえることとします。

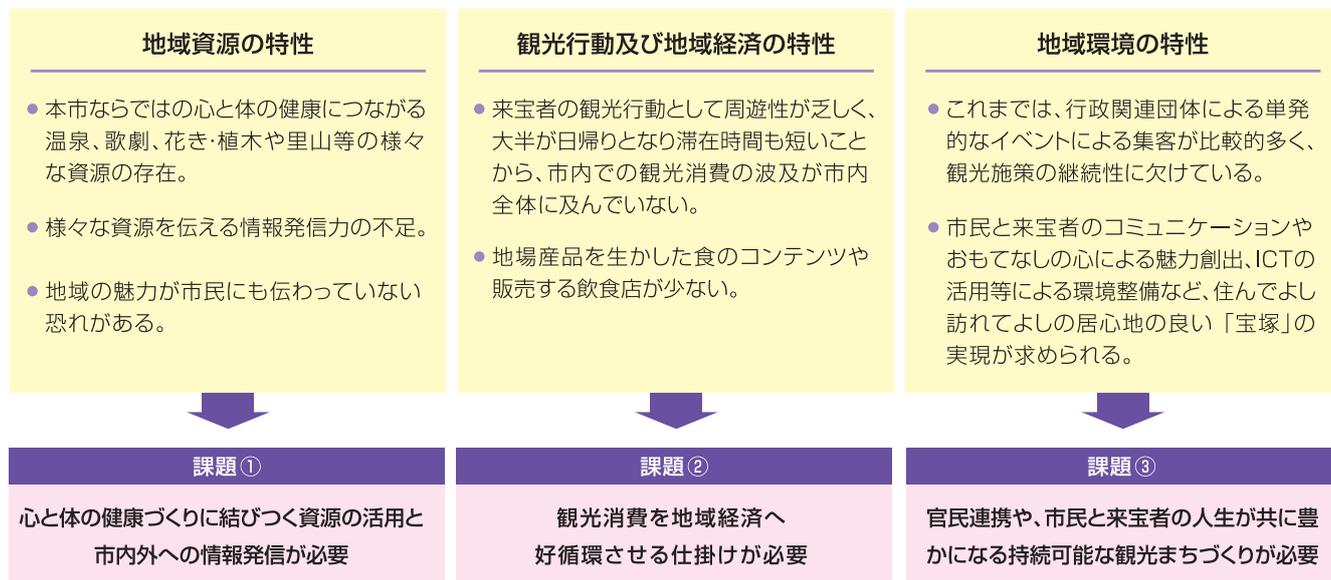


第2章 宝塚市をとりまく観光の現状と課題

1 宝塚市をとりまく観光の現状と課題

本市の観光の現状を調査し、分析結果をもとに、地域資源、宝塚を訪れた人(来宝者)の観光行動及び地域経済、地域環境の視点から課題を整理すると次のようになります。

【具体的な特性と課題】



【環境の変化】

- 観光ニーズが多様化し、団体から個人へ、訪問型から体験型への志向が高まり、新しい観光スタイルへの転換が求められている。
- コロナ禍の影響により、国内外ともに「健康」や「自然」、「安心安全」への期待がさらに高まっている。
- SDGs(持続可能な開発目標)を意識しながら、持続可能な観光振興を図る必要がある。

Point

本市ならではの観光資源を巧みに組み合わせ、統一したコンセプトを掲げ、持続可能な形で経済効果を生み出す方向性が重要

➡ 本戦略へ反映

【想定される必要な取り組み姿勢】

- 心と体の健康づくりに結びつく資源を活用し、統一的なコンセプトによる市内外への効果的な情報発信による誘客の展開
- 観光行動の転換に結びつく観光コンテンツを提供し、持続可能な形で、観光消費額を増大させる取り組みを展開

市民と来宝者のつながりをつくりながら課題①～③を解決

めざすまちの姿を実現

1 第6次宝塚市総合計画に定めるめざすまちの姿

宝塚らしい“にぎわい”と文化芸術があふれる、創造性豊かなまち

2 コンセプト

ウェルネスを実現するまち、たからづか

～宝塚の魅力(まちの宝)でよろこび、癒^{いや}し、つながりを生み出します～

- 近年、観光が地域を活性化させる重要な要素であるという認識が全国に広がっており、観光の視点に立ったまちづくりの取り組みを加速させていく好機となっています。一方で、自治体間競争が激化しているため、自治体として差別化が可能なコンセプトを設定し施策展開を図っていきます。
- 本市は観光資源の宝庫であり、これらを生かした観光振興の取り組みは、地域の活性化を進める上で大きな可能性を有しており、コンセプトの設定にあたっては、それらの観光資源や、前戦略の理念にもある「心と体の健康」、観光客のニーズの変化(コト体験への移行)、近年関心が高まる健康寿命に対する観光が持つポテンシャル、インバウンドに対する訴求力(心身を癒すリフレッシュ旅行)に鑑み設定しました。

ウェルネス

「ウェルネス」は単純な「健康」のみに留まらず、「身体の健康、精神の健康、環境の健康、社会的健康を基盤にして、豊かな人生をデザインしていく、自己実現(平成29年(2017年)琉球大学 荒川雅志教授)」という意味を含んだ多義的な言葉であると定義されています。

この考え方を基礎に、宝塚市は本市ならではのこころやからだの健康づくりに結びつく資源を活用し、「ウェルネス」を実現する取り組みによる観光振興を「ウェルネスツーリズム」と位置づけ、今後の観光振興の柱とします。

3 基本目標

宝塚ならではの魅力を活用し、「ウェルネス」をキーワードに、市民や国内外からの来宝者の楽しみや感動、喜び、こころとからだの安らぎを提供する観光振興に取り組み、市民も来宝者も“「こころ」も「からだ」も豊かになるまち”を目指します。

実現のために、創造性を持ちながら、まちの宝である様々な資源(温泉や歌劇、花き・植木、信仰(巡礼)、建物、農産物、豊かな自然など)を活用し、これからもできるだけ多くの市民、来宝者に向けて宝塚観光の魅力を発信する『まちの宝でおもてなし』を展開し、交流を生み出し、育んでいきます。

来宝者を「おもてなし」するためには地域資源の魅力を十分に市民に知っていただくことも重要となります。そのうえで、市民と来宝者の交流を生み出す仕組みづくりを意識することとします。そのことが両者の満足度向上につながると考えます。

【施策展開にあたっての留意点】

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1 観光消費額の増大 | 4 市全体のブランド力の創出 |
| 2 官民連携による持続可能な観光振興 | 5 新型コロナウイルス感染症に代表される感染症等への対策 |
| 3 市民と来宝者のつながりづくり | |



フィジカル要素イメージ



メンタル要素イメージ

4 基本方針

(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし

多くの人を訪れる宝塚大劇場、中山寺、清荒神清澄寺、温浴施設等、宝塚ならではの文化の礎（温泉や歌劇、信仰・巡礼）に加えて、建物、花き・植木、武庫川や北摂の自然環境、西谷野菜や山里の食材等、バラエティー豊かな地域資源を磨き上げて掘り起こし、持続的な観光振興を図り『まちの宝』を高めていきます。



宝塚大劇場

西谷夢市場



想定する取り組み例
(個別戦略)

- ウェルネスツーリズムの促進
- 市内の地域間の周遊性の向上
- ウェルネスツーリズムを核とする観光ビジネスの創出

(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信

宝塚の魅力である『まちの宝』を組み合わせ情報発信に努めます。来宝者に対する「おもてなし」のため、『まちの宝』を十分に市民に知っていただくことをはじめとし、市内の文化・歴史・自然・暮らしの資源を一つの物語として組み立て、ターゲット層の明確化や数値化されたデータに基づき様々な地域資源の魅力を外部に伝えていくよう努めます。



SNSを活用した情報発信

想定する取り組み例
(個別戦略)

- ニーズに合わせた情報発信による積極的な誘客の展開
- ウェルネスツーリズムへの誘客促進
- 戦略的な観光情報発信による誘客促進
- 観光資源の市民へのPR

(3) 持続可能な観光振興に向けた環境整備

国内外からの来宝者と市民がつながるまちづくりを推進します。市民(事業者等含む。)の理解により、おもてなし(相互理解)を深めていくために、『まちの宝でおもてなし』という視点を持った人材育成に取り組むとともに、市民同士や市民と来宝者、来宝者同士等が交流する“つながるまちづくり”を推進します。その場合、SDGs(持続可能な開発目標)の観点から観光公害について十分配慮した取り組みとします。また、飛躍的な通信環境の向上によるICTを活用したサービスの提供や、移動環境等の劇的変貌への対応検討も行っていきます。



市民ボランティアガイドの様子

想定する取り組み例
(個別戦略)

- 来宝者に向けた観光インフラ整備
- 観光に携わる人材の育成
- 持続可能な観光振興に向けての取り組み

5 目標値

成果指標	現況 平成30年度(2018年度)時点	目標 令和12年度(2030年度)時点
官民連携による新規観光コンテンツ提供事業者数	—	5事業者
官民連携による新規観光コンテンツ提供数	—	10コンテンツ
観光入込客数 (外国人観光客数)	11,789千人 (16,265人)	12,089千人 (18,000人)
宿泊者数	131千人	152千人
観光消費額	87,755百万円	90,000百万円

宝塚市観光振興戦略 概要版

発行日 令和3年(2021年)7月

発行 宝塚市

編集 産業文化部 宝のまち創造室 観光企画課

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号

TEL : 0797-77-2012

FAX : 0797-74-9002